

産科婦人科

1. 臨床医学教育の現状と評価

(1) 臨床医学教育の目標

- 1) 学生に対しては、医師国家試験および卒後の臨床のための基礎知識習得を目的とした教育－医師国家試験の結果からも産科婦人科分野についての教育は十分に成果を上げている。
- 2) 産科婦人科認定医の取得を目標とした卒後5年間の教育－受験者全員が認定医試験に合格している。
- 3) 各分野の専門医育成のための教育－専門医にふさわしい知識と経験を備えた医師を多数育成している。

(2) 医員、医員（研修医）の現状と研修実績

1) 初期研修医の現状について

a. 研修実績について（対象期間：平成9年度－12年度）

入局者数と本院での研修期間（月数：平均値）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
入局者数	3人	5人	1人	3人
研修期間	24ヶ月	17ヶ月	8ヶ月	12ヶ月

b. ローテート方式研修の実績

平成9年度：0人

平成10年度：0人

平成11年度：1人、研修した他科名：麻酔科、小児科

平成12年度：0人

2) 医員の受入れ状況（対象期間：平成9年度－12年度）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
採用者数	4人	5人	1人	3人

(3) 指導体制について

教授以下のスタッフが全員で、それぞれの専門分野を中心に指導に当たっている。

(4) 研修の評価について

卒後5年での産科婦人科学会認定医取得のための経験症例数、学会発表、論文発表

(5) 関連研修施設の現状

- 1) 大分県立病院 2) 国立大分病院 3) 健康保険南海病院
- 4) 健和会大手町病院 5) 西田病院

(6) 臨床教授

谷口 一郎（大分県立病院 副院長 産婦人科）

(7) 認定医・専門医・指導医の取得状況（平成9年度～12年度）

1) 日本産科婦人科学会／認定医9名

(8) 学会認定施設の状況

1) 日本産科婦人科学会

※今後の課題と改善策

・入局者、医局員の増加、先端の知識や技術の習得により、さらに新しく高度な医療に対応していく

2. 臨床医学研究の現状と評価

(1) 臨床医学研究の目標

1) 生殖医学分野の臨床と研究

2) 臨床に役立つ up to date な研究

現在のところ、十分な成果を上げている。

(2) 研究スタッフ

教授 1名、助教授 1名、講師 1名、助手 4名

実験助手（非常勤職員を含む） 1名

事務職員（非常勤職員を含む） 2名

(3) 研究領域と研究課題（対象期間：平成9年度～12年度）

主な研究課題名

1) 婦人科癌における癌遺伝子についての研究

2) 陣痛発来メカニズムについての研究

3) 月経、妊娠とサイトカインネットワークについての研究

4) 排卵のメカニズムについての研究

(4) 博士（医学）の学位の取得状況（平成9年度～12年度）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
取得者数	2名	1名	4名	4名

(5) 学会、研究会活動（シンポジウム、特別講演、学会役職等）

年 度	9年度	10年度	11年度	12年度
学会発表 (国際)	6回	22回	6回	6回
(国内)	19回	18回	35回	27回
(地方)	18回	34回	26回	21回
(司会・座長)	16回	14回	8回	6回
シンポジウム特別講演等				
(国際)	0回	0回	1回	0回
(国内)	3回	2回	2回	3回
(地方)	3回	2回	1回	0回
(司会・座長)	3回	2回	2回	9回

学会役職（評議員、理事等）（平成9年度－平成12年度）	
日本産科婦人科学会	宮川勇生（評議員）
日本内分泌学会	宮川勇生（評議員）
日本不妊学会	宮川勇生（評議員）
日本受精着床学会	宮川勇生（理事）
日本産婦人科・新生児血液学会	宮川勇生（評議員） 檜原久司（評議員）
日本更年期医学会	宮川勇生（評議員）
日本周産期学会	宮川勇生（評議員）
日本妊娠中毒症学会	宮川勇生（評議員）
日本女性心身医学会	宮川勇生（理事）
日本胎盤研究会	宮川勇生（理事）
腎と妊娠研究会	宮川勇生（理事）
日本不妊学会九州支部会	檜原久司（評議員）

(6) 研究論文（英文、和文）（平成9年度－12年度）

- 1) Takai N, Miyazaki T, Fujisawa K, Nasu K, Miyakawa I: Expression of c-ETS 1 is associated with malignant potential in endometrial carcinoma, Cancer, 89 (10), 2059-2067, 2000
- 2) Nasu K, Matsui N, Narahara H, Tanaka Y, Miyakawa I: Effect of interferon- γ on cytokine production by endometrial stromal cells, Hum Reprod, 13 (9), 2598-2601, 1998
- 3) Nasu K, Sugano T, Matsui N, Narahara H, Kawano Y, Miyakawa I: Expression of hepatocyte growth factor in cultured endometrial stromal cells is induced through a protein kinase C-dependent pathway, Biol Reprod, 60 (5), 1183-1187, 1999
- 4) Sugano T, Nasu K, Narahara H, Kawano Y, Nishida Y, Miyakawa I: Platelet-activating factor induces an imbalance between matrix metalloproteinase-1 and tissue inhibitor of metalloproteinases-1 expression in human uterine cervical fibroblasts, Biol Reprod, 62 (3), 540-546, 2000
- 5) Hirota Y, Anai T, Miyakawa I: Parathyroid hormone-related protein levels in maternal and cord blood, Am J Obstet Gynecol, 177 (3), 702-706, 1997
- 6) Tanaka Y, Narahara H, Takai N, Yoshimatsu J, Anai T, Miyakawa I: Interleukin-1 β and interleukin-8 in cervicovaginal fluid during pregnancy, Am J Obstet Gynecol, 179 (3 Pt 1), 644-649, 1998

- 7) Fujisawa K, Nasu K, Arima K, Sugano T, Narahara H, Miyakawa I: Production of interleukin (IL)-6 and IL-8 by a choriocarcinoma cell line, BeWo, Placenta, 21 (4), 354-360, 2000
- 8) Nishida Y, Yoshida S, Li H-J, Higuchi Y, Takai N, Miyakawa I: FTIR spectroscopic analyses of human placental membranes, Biopolymers, 62 (1), 22-28, 2001
- 9) Kawano Y, Matsui N, Kamihigashi S, Narahara H, Miyakawa I: Effects of interferon- γ on secretion of vascular endothelial growth factor by endometrial stromal cells, Am J Reprod Immunol, 43 (1), 47-52, 2000
- 10) Kawano Y, Kawasaki F, Nakamura S, Matsui N, Narahara H, Miyakawa I: The production and clinical evaluation of macrophage colony-stimulating factor and macrophage chemoattractant protein-1 in human follicular fluids, Am J Reprod Immunol, 45 (1), 1-5, 2001

(7) 高度先進医療開発研究の現状

体外受精・胚移植などの不妊治療を主体とした生殖医学についての研究を行っている。

※今後の課題と改善策

・これまでにやってきた基礎研究の臨床応用が今後の課題である。

3. 診療の現状と評価

(1) 診療の目標

高度な知識、技術、経験を背景に、患者本位の診療を行う。

(2) 診療実績（平成9年度－12年度）

区 分	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
外 来 患 者 数	11,845人	13,144人	13,232人	11,548人
初 診 患 者 数	788人	865人	824人	765人
紹 介 患 者 数	338人	301人	296人	331人
入 院 患 者 数	16,139人	15,809人	16,746人	16,013人
平 均 在 院 日 数	26.2日	24.5日	21.6日	19.9日
平均病床稼働率	90.2%	91.8%	99.5%	95.4%
死 亡 退 院 率	2.0%	1.0%	0.7%	1.0%
剖 検 率	8.3%	16.7%	60.0%	37.5%

(3) 特殊検査・手術症例等

検査、手術は、特殊なもの、最先端の高度な技術を要するものを含め、すべての分野について対応している。

(4) 特殊専門外来

1) 不妊内分泌（体外受精・胚移植） 2) 腫瘍 3) 産科 4) 更年期 5) 骨粗鬆症

(5) 高度先進医療・先端医療の導入

特になし

※今後の課題と改善策

・医療レベルの向上と患者本位の医療をさらにすすめる。

4. 国際交流について（平成9年度～12年度）

(1) 国際医療協力体制

特になし

(2) 留学（長期外国出張）

- 1) カリフォルニア大学サンフランシスコ校（アメリカ合衆国）、平成8年12月～平成9年10月、1名

(3) 外国出張（国際学会活動など）

1) 平成9年

XV FIGO World Congress of Gynecology and Obstetrics 4人 デンマーク

2) 平成10年

6th International Congress on Platelet-Activating Factor and Related Lipid Mediators 2人 アメリカ合衆国

16th World Congress on Fertility and Sterility 3人 アメリカ合衆国

8th Taiwan-Japan Symposium on Obstetrical/Gynecological Ultrasound and Perinatology 3人 中華民国

5th Congress of the Asian Federation of Societies for Ultrasound in Medicine and Biology 3人 中華民国

46th Annual Meeting of the Society for Gynecologic Investigation 1人 アメリカ合衆国

3) 平成11年

5th Conference of the International Federation of placental Associations 4人 オーストリア

4) 平成12年

なし

(4) 外国人研究者の受け入れ状況

年 度	平成9年度	平成10年度	平成11年度	平成12年度
目 的		研究、大学院	研 修	研究、大学院
受入人数		1名	1名	1名
出身国名		シリア	中 国	中 国
滞在期間		4年	1年	4年
費用負担		国 費	私 費	私 費

※今後の課題と改善策

・さらに国際交流の機会が増えるよう努力する。

5. 国会学会や研究会の開催（平成9年度～12年度）

診療科で担当した地方学会・研究会、全国規模の学会・研究会

学 会 等 の 名 称	開催期日	参加人員	発表形式	その他
日本産科婦人科学会大分地方部会	平成9年7月	約80名	口 演	
日本産科婦人科学会大分地方部会	平成10年7月	約80名	口 演	

※今後の課題と改善策

- ・今後も積極的に学会活動を行い、より多くの学会を大分で開催できるよう誘致する。

6. 地域との関わり

診療科で担当した大分県内の研修会、研究会について

研 修 会 等 の 名 称	開催頻度	参加人員	発表形式	認定医資格継続適合の有無
日本産科婦人科学会大分 地方部会市民公開講座	3年に1回	560名	特別講演	なし

※今後の課題と改善策

- ・積極的に地域医療に関与し、地域医療の向上、一般住民の啓蒙に努める。

7. 診療科の特色

産科婦人科全般にわたり、それぞれ専門医が対応している。

8. 将来展望

これまでの実績をさらに伸ばしていく。